

地方創生 やらまいか通信 vol.85

発行日：平成 29 年 2 月 17 日

金融機関支店長との意見交換



高齢者就労に対するニーズと期待は一層高まる

H29.2.15 第6回金融機関支店長会議

(主なテーマ)

- ・平成 29 年度当初予算の概要 ～地方創生を中心に…～
- ・「高齢者就労に関する協議会」への参画を要請

第6回「金融機関支店長会議」での意見紹介

● 3 Days Worker's Office 構想について

高齢者の就労ニーズが高まっていると感じている一方で、企業内で活躍する高齢者のモチベーションをいかに確保させることができるかが経営上の課題。

職務内容や権限、役割など高齢者が良いパフォーマンスを出せる環境づくりに工夫が必要。

今後、需要供給双方で「高齢者に適した働き方」のニーズは一層高まると感じる。

多様な働き方を地域ぐるみで創出することで、人手不足が顕著な産業分野への労働力シフトの一助になることに加え、保育や看護などの分野においても、現在、休職中の有資格者が復職しやすくなると思う。

これにより、待機児童への対応などの相乗効果も得られることを期待したい。

(参加金融機関)

株式会社静岡銀行、株式会社清水銀行、磐田信用金庫、掛川信用金庫、浜松信用金庫、日本政策金融公庫

● 課題解決に向けたスピードアップと連携強化

地域課題に対する対処や地方創生の戦略的な取組においても、これまで以上にスピード感と関係企業や団体との連携強化が求められていると感じる。

市役所内の関係部局との調整はもとより、関係団体等との連携がスピーディーに図れるような体制づくりが地方創生の実現に向けた重要な鍵となると思う。

● ふるさと納税について

防潮堤整備など、寄附を募り事業を実施していく必要性は理解できる。袋井は、もっと「クラウンメロン」を全面に打ち出して PR することで、より多くの寄附を募ることができるのではないかと感じている。

一方、モノだけでなく、コト（体験）を返礼品にする企画は、交流人口や地域内消費への波及効果が期待できるなど有効だと感じる。